

ぶれいくたいむず

第5号

第5回家族会



第5回目の家族会は、当院職員の田中満寿美さんに『義母の介護から得たもの』という内容でお話していただきました。

ご家族の方8名、患者さん5名と我々スタッフは、原稿も見ずに優しく語りかけるように話をしてくれる田中さんの言葉にすぐに引き込まれました。

田中さんは介護生活を振り返り、これから本格的に介護生活が始まると覚悟を決めた矢先に亡くなってしまったおばあさんを例に挙げ、「いつ何が起こるかわからないからやりたいことは後回しにせずやった方がよい」「何よりも家族の大切さが分かった」「いつも笑顔でいなさい、そうすれば周りも自分も幸せになれるから」など話をしてくれました。私はその言葉を聞いて田中さんのおばあさんである田中いそじさんを思い出していました。思い出したその顔は笑顔に溢れていたのです。



いそじさんのリハビリを担当させて頂いたご縁で、今回の家族会での講演を依頼したのですが、いそじさんは典型的な“山梨のおばあちゃん”という方でした。難聴で声が大きいです。それが周囲を和ませるチャームポイントでした。「なんでえ〜」「って！！」などの方言をつかい、毎回楽しくリハビリさせて頂きましたが、癒されていたのはいそじさんではなく私の方だったと今でも強く思います。本当に素敵な出会いでした。(田中さんのお話を聞きながらその時のこと思い出し、感情が溢れてきてしまいました。反省です)

介護経験から得たもの



田中さんはお話の中で「残り少ないおばあちゃんの人生を私の仕事の都合で決めていいものか」と考え介護を決意したとのことでした。

現在は老老介護、認認介護など介護問題が社会問題として世間に認識されてきました。また介護を担っている方の多くは妻や嫁など女性が多く、田中さんのように介

護の為に仕事を辞めたり、外出する機会が減ることで社会とのつながりが希薄になり、介護者の精神的・身体的負担の増加が問題になっています。そのようなご家族の方々に対して家族会として何ができるかを深く考えていかなければならないと強く感じています。

第5号

参加してくれたご家族の声

今回参加して下さったご家族の中にもお嫁さんがいらっしゃいました。その方は先の見えない介護に対して不安を抱いていたとのことでした。それを友人に聞いてもらうことで精神的に楽になったり、夫からの“ありがとう”などの感謝の言葉でとても勇気づけられているとおっしゃっていました。(聞いたらそのご夫婦は恋愛結婚だったそうです！)

また親・夫と介護し自分の人生のほとんどの時間を誰かのために費やしているという方もいらっ

しゃいました。振り返る間もなく過ごしてきたため、やりたいこともできなかったと言っていました。何うと本を書きたいとのことでした。ぜひ時間があったら介護経験を手記にしてもらいたいと勧めさせていただきました。

今回はくも膜下出血で入院されていた方も久しぶりに顔を見せてくれました。高次脳機能障害が残りながらも出来ないことは周囲のサポートを受けながら元気に生活しているそうです。入院時とは違いおしゃれできれいな方でした。



大恋愛

嬉しいことに当日のアナウンスとポスターを見て参加してくれたご家族もいらっしゃいました。入院しているお母さんも一緒に参加して聞いてもらいたかった、と今回の内容について感想を述べていただきました。少しずつ家族会が認知されていくことは嬉しいことです。

前回に引き続き今回も参加をしてくれたご家族もいらっしゃいま

した。その方がいるだけで家族会の雰囲気良くなります。内弁慶的な旦那さんを介護していますが、妻は一步も二歩も下がって我慢していると言っていました。が、「旦那とは大恋愛の未結婚したから、やっぱり旦那が大切にねえ」とここでものろけられてしまうとこっちまで照れてしまいます。本当に愛って大切だと感じました。



家族っていいなあ

田中さんは講演の最後にこんな言葉を皆さんに送ってくれました。「周りの人に話しをしてください。それは愚痴ではないのです。話をすることで自分も楽になるし、周囲の方にも知ってもらうことでサポートも受けられるようになる。自分一人で抱え込まないことが大切です」と。ご家族のなかには周りに相談できない方も多くいると思います。そんな時に家

族会がという存在が少しでも手助けになれるよう発展させていかなければいけないと感じました。

そして田中さんは「仕事を辞めて子供を初めて朝見送ることで、お帰りを言うことができた」とおっしゃっていました。そんな言葉やご家族の話聞いて強く胸に残るのは、なんだかんだ言っても『家族っていいなあ』その思いでした。

